

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 19 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381021

研究課題名(和文) 戦後教育改革における中等教育の再編とジェンダー構築に関する研究

研究課題名(英文) A study on the reorganization of secondary education and the gender formation in the post WW2 educational reform

研究代表者

小山 静子 (KOYAMA, Shizuko)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・教授

研究者番号：40225595

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦後教育改革によって再編された中等教育に焦点をあてながら、その過程においてどのようなジェンダー秩序が構築されたのか、実証的かつ具体的に解明することを目的としていた。というのも、戦後、中等教育は男女別学体制から男女共学体制へと転換し、教育機会の男女平等が達成されたからである。そのため、全国12の地域をとりあげ、それぞれの地域で、公立高等学校においてどのように共学化が進行し、あるいは別学が存続したのか、検討した。そしてその結果、GHQ/SCAPの介入の程度、学区制の実施状況、私立学校の多寡、地域の教育に対する意識などが、公立高等学校の教育を規定していたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the forming of gender order concretely and in a demonstrative way by focusing on the reorganization of secondary education in the post WW2 educational reform. Since, after the WW2, the secondary education changed from the single-sex education to the co-educational system, thus the equality of sexes was achieved as of educational opportunity. For this purpose, this study picks up 12 regions out of the whole country, examines how the co-educational system progressed or the single-sex educational system continued to be performed in public high schools in each region. As a result, it becomes clear that the public high schools are defined by the extent of the intervention of GHQ/SCAP, the situation of school districts, the number of private schools, and the awareness for the local education.

研究分野：教育学

キーワード：男女共学 男女別学 新制高等学校 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

近年、戦後教育史に関する研究が盛んになってきているとはいえ、その研究の多くは主に文部省やGHQ/SCAPの動向を考察したものであり、制度史的な研究が中心となっている。そのため、中央レベルでの方針が各地域でどのように受け取られ、実行されていったのかといった政策の浸透過程や、より実態に即した状況を明らかにしようとする社会史的な研究が等閑に付されている。その結果、戦後教育改革によって大きな変革をもたらされた中等教育におけるジェンダーの問題もほとんど考察が加えられていないのが現状である。

2. 研究の目的

(1)本研究は、戦後教育改革によって再編された中等教育に焦点を絞りながら、その過程においてどのようなジェンダー秩序が構築されたのかを、実証的かつ具体的に解明することを目的としている。戦後、中等教育は男女別学体制から男女共学体制へと転換し、教育機会の男女平等が達成された。それは、性別によって大きく異なっていた戦前の教育のあり方に大きな転換をもたらすものであったが、同時に、新たなジェンダー秩序の成立も意味していた。ではいったい、戦後の中等教育で構築されたジェンダー秩序とは、どのようなものだったのだろうか。そしてそれは社会的状況の変化によっていかに変容していったのだろうか。あるいは制度上の変化をこうむりながらも、戦前から戦後へと継承されていったものは何であったのだろうか。これらの問題を歴史的に解明することが、現在求められている。本研究は、1960年代までを射程に入れて、これらの問題を考察することを目的としている。

(2)上述の研究目的に迫るために、本研究は、戦後中等教育に存在するジェンダー秩序を、具体的な学校に視座をすえながら明らかにしようとするものであるが、そのことを通して、戦前の男女差別教育から戦後の男女平等教育へといった単純な図式ではなく、戦前から戦後へのジェンダー秩序の変容という視点で戦後教育を考察することとする。そもそもジェンダーによる歴史分析とは、女性への抑圧が生み出された歴史的経緯と社会的要因を明らかにするだけでなく、それと表裏一体の関係をなして進められた男性優位の社会構造の形成までもも考察の対象とするものであり、性差に基づく非対称的な権力関係の構造がいかにして形成されたものなのかを問うものである。このような視点にたつて、戦後教育改革において中等教育がどのように再編され、その過程においてどのようなジェンダー秩序が成立したのか、本研究では、具体的な高校生活、生きられた歴史を通して明らかにしていくこととしたい。

3. 研究の方法

高等学校は設置主体が都道府県あるいは市町村の公立学校が中心であるため、全国レベルでの教育改革に規定されながらも、各地域の独自の課題にも対処しつつ制度的改革が行われ、地域の独自性を反映した教育状況が生み出されていった。そこで本研究では、旧制の中学校・高等女学校をそのまま新制の男子高等学校・女子高等学校とした地域、完全に男女共学化した地域、男女共学化しつつも前身校を反映させながら男女別定員を設けた地域、の3つに分けて研究を進めることとした。具体的にいえば、として福島県、群馬県、として北海道札幌市・旭川市、青森県津軽地方、京都市・乙訓地域、大阪府、和歌山市、神戸市、福岡県久留米市、熊本市、鹿児島県、として東京都、の12の地域を取り上げた。

その上で、都道府県議会の議事録、地方新聞や全国紙の地方版、各学校の学校史や学校新聞、同窓会誌などに掲載された、高等学校教育に関するさまざまな記述や記事を主な史料として用いて、それらの記述や記事に描かれたジェンダーのありように注目し、歴史研究を進めていった。

4. 研究成果

(1)これらの地域の研究を通して明らかになったこととして、まず指摘しておかなければならないことは、公立高等学校における男女共学化や別学の継続は、それぞれの地域事情に鑑みながら、実に多様に展開したという、ある意味当たり前の事実である。そのため、たとえ同じく男女共学化したといっても、その内実には大きな相違が存在していたといえることができる。

そしてそれらの相違をもたらす要因としてあげることができるのが、教育改革におけるGHQ/SCAPの介入の軽重、小学区制の実施状況や小学区制から中学区制への転換の有無、地域に存在する私立学校の多寡、進学教育における私立学校がもつ重要性の相違、地域の公立高等学校を重んじる意識や進学教育に対する期待などである。これらの要因が、複雑に絡まり合いながら、新制高等学校のあり方を規定し、男女共学あるいは男女別学の高等学校を生んだこと、またたとえ一旦は男女共学化したとしても、一部の地域では1950年代になると、男女別学への回帰や男女比がアンバランスな男女共学への変容が見られることが明らかとなった。

(2)具体的に地域に即して明らかになったことを述べれば以下の通りである。

旧制の中学校・高等女学校をそのまま新制の男子校・女子校とした地域である、福島県や群馬県では、中等教育の再編に際して、GHQ/SCAPの介入がほとんど見られないという特徴がある。そのためか、男女共学化ということはほとんど議論の対象になってお

らず、戦前の中学校と高等女学校の延長上に、男女別学の高等学校へ移行していった。ただ、これらの地域にも共学校となった高等学校もあり、そのような学校と別学のまま新制高等学校となった学校との差異が何によってもたらされたのかという問題は、今後の課題として残されている。

完全に男女共学化した地域の中でもっとも男女共学制が順調に定着していった地域が、北海道札幌市・旭川市、京都市・乙訓地域、大阪府である。また神戸市や和歌山市は旧制の中等学校を前身校として新制の高等学校を設立しなかった地域であり、神戸市では、旧制の県立第一神戸中学校と県立第一神戸高等女学校とが合併して、共学の県立神戸高等学校が設立された。和歌山市は、旧制の中等学校がすべて一旦廃校となり、新たな学校として共学の高校を設立して、厳密な小学区制をひいたという特徴をもつ。

それに対して青森県津軽地方の4つの公立高等学校では、旧制中等学校を継承しながら、原則として共学化が図られたが、その後、一部、別学に回帰する高等学校も見られるなど、その展開は直線的なものではなかった。また共学を維持した学校でも、男女比がアンバランスになったりしている。熊本市では、旧制中等学校を継承しながら、完全に共学化した高等学校が1948年に成立したが、1950年代半ばには男女比が極端にアンバランスとなり、前身校を彷彿とさせる高等学校へと変容した。その背景には、小学区制から中学区制への転換や旧制中等教育機関に対して地域の人々が抱いている伝統を重んずる意識が存在していた。

久留米市でも、男女共学制・小学区制が徹底されたが、地域にあった旧制中学校を重んじる傾向や、私立の進学校の設立、小学区制の撤廃によって、男女共学制は複雑な様相を呈していった。同様に、鹿児島県でも中等教育の再編の際には男女共学制や小学区制へ転換したが、それゆえ従来のエリート層には教育への不満が蓄積し、結果的には私立の進学校の設立という形で、その不満が解消されていった。

男女共学化しつつも前身校を反映させながら男女別定員を設けた地域としては、東京都があげられる。東京都では、都内を10の通学区にわけて、それぞれの学区に複数の高等学校を配したが、それらの高等学校には旧制の前身校を反映する形で男女別定員がしかれている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

石岡 学、戦後初期大学入試における進学

適性検査の「練習効果」に対する認識、文化情報学、査読無、11巻2号、2016、84-93

前川 直哉、福島第1原発事故と歴史教育、校の聖母短期大学紀要、査読無、40号、2016、179-194

石岡 学、旧制中学校・女学校のスポーツはいかに表象されていたか、シノドス、査読無、182号、2015、26-34

石岡 学、1920年代日本の中等学校入試改革論議における「抽籤」論にみる選抜の公正性、教育社会学研究、査読有、94集、2014、173-193

前川 直哉、イケメン学の幕ひらくとき：「社会のイケメン化」をめぐる現代史、ユリイカ、査読無、46巻10号、2014、26-34

今田 絵里香、「少女」になる 少女雑誌における読むこと／見ること／書くことをめぐって、ユリイカ、査読無、45巻16号、2013、178-186

〔学会発表〕(計5件)

石岡 学、第1次・第2次小学校令期(1886-1900年)における試験の有用性に対する認識、日本教育社会学会、2015年9月10日、駒澤大学(東京都世田谷区)

今田 絵里香、Correspondence Culture in Boys' and Girls' Magazines in Prewar Japan, Child's Play: Multi-sensory Histories of Children and Childhoods in Japan and Beyond(University of California at Santa Barbara-The Japan Society for the Promotion of Science JOINT SYMPOSIUM)(招待講演)、2015年2月27日、University of California at Santa Barbara, Santa Barbara(U.S.A)

石岡 学、1920年代の中等学校入試改革論議にみる能力主義の脆弱性、国際シンポジウム「戦前・戦時(1925-1945)の教育や子ども・青年の生活」、2014年1月11日、京都大学(京都府京都市)

今田 絵里香、少女雑誌における書くこと／読むことをどのようにとらえるか、日本教育社会学会第65回大会、2013年9月22日、埼玉大学(埼玉県さいたま市)

石岡 学、1920年代日本の中等学校入試改革言説における「抽選」の正当性、日本教育社会学会第65回大会、2013年9月21日、埼玉大学(埼玉県さいたま市)

〔図書〕(計10件)

今田 絵里香 他、風間書房、ダイナミズ

ムとしてのジェンダー——歴史から現在を見る
ところみ、2016、1-32

小山 静子、今田 絵里香、石岡 学 他、
柏書房、男女別学の時代、2015、7-64、209-300

小山 静子、柏書房、女学叢誌 / 文明之母
〔復刻版〕解題、2015、21

今田 絵里香 他、新曜社、ライフスタイル
とライフコース——データで読む現代社会、
2015、71-77

今田 絵里香 他、風間書房、データで読
む日本文化——高校生からの文学・社会学・
メディア研究入門、2015、67-93

小山 静子、今田絵里香、前川 直哉 他、
京都大学学術出版会、セクシュアリティの戦
後史、2014、1-34、57-77、197-217

小山 静子 他、岩波書店、岩波講座日本
歴史第 16 巻、2014、183-214

小山 静子 他、Routledge, Gender,
Nation and State in Modern Japan, 2014,
85-100

小山 静子 他、日本図書センター、子ど
も・家族と教育、2013、489-517

小山 静子、柏書房、『女学新誌』『日本之
女学』(復刻版)解題、2013、17

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小山 静子(KOYAMA, Shizuko)
京都大学・大学院人間・環境学研究科・教
授

研究者番号：4 0 2 2 5 5 9 5

(2) 研究分担者

石岡 学(ISHIOKA, Manabu)
同志社大学・文化情報学部・助教
研究者番号：0 0 6 2 4 5 2 9

今田 絵里香(IMADA, Erika)
成蹊大学・文学部・准教授
研究者番号：5 0 5 3 6 5 8 9

前川 直哉(MAEKAWA, Naoya)
東京大学・大学院経済学研究科・研究員
研究者番号：2 0 7 3 9 1 5 6
(平成 26 年度より研究分担者)

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

須田 珠生(SUDA, Tamami)
土田 陽子(TSUCHIDA, Yoko)
土屋 尚子(TSUCHIYA, Naoko)
中山 良子(NAKAYAMA, Yoshiko)
林 葉子(HAYASHI, Yoko)
日高 利泰(HIDAKA, Toshiyasu)
和崎 光太郎(WASAKI, Kotaro)